

ヒト・霊長類比較解剖学分科会シンポジウムS8 肩帯を考える

オーガナイザー：影山 幾男・時田 幸之輔

10月10日（13：30～15：30）B会場

本シンポジウムでは、ヒト・霊長類比較解剖学として、肩帯の形態学的特徴を考えたい。霊長類を含めた哺乳類の肩帯の骨・筋形態は、一見非常に似かよっている様にも見える。しかし、哺乳類は多様な運動レパートリーを有しており、それぞれの種は、種特異的なロコモーション様式に応じた形態適応を示しているとも考えられる。そこで、和田先生には「肩甲骨の形態と系統、生息域、そして移動運動との関係」についてご講演をお願いした。さらに、腕を頭の上に挙げる運動は、ヒトにとっては日常的なものであるが、この動作は他の動物にとっては一般的ではなく、霊長類においても類人猿などのごく一部の動物種に限られている。大石先生には、これらの動作(懸垂運動)に関連した形態特徴についてご講演をお願いした。また、脊椎動物の体幹は分節的な構造の繰り返しによって作られるが、体幹と上肢との移行領域である肩甲骨帯は分節的構成が修飾され、理解の難しい領域である。緑川先生には、肩帯周辺に分布する脊髄神経の形態的意義についてご講演をお願いした。広く脊椎動物全体を観察すると肩帯を構成する骨形態は多様であり、その中で哺乳類では、肩帯を構成する骨は減ずる傾向にあるようである。そこで最後に小泉先生には、肩帯を構成する骨、筋、脊髄神経の比較解剖学についてご講演をお願いした。以上より、肩帯の基本構成と特殊化について、理解を深めたい。

講演

S8-1 哺乳類の肩甲骨の形状と、系統およびロコモーションとの関係 (和田 直己)

Morphological studies of mammal's scapula (Wada, Naomi)

S8-2 相対重量値からみた大型類人猿の肩関節周囲の筋 (大石 元治)

Mass ratios of shoulder girdle muscles among great apes (Oishi, Motoharu)

S8-3 体幹-上肢移行領域における末梢神経比較解剖学 (緑川 沙織)

Comparative anatomy of peripheral nervous system in the boundary between trunk and upper limb (Midorikawa, Saori)

S8-4 比較解剖学から見る肩帯進化 -ヒトの肩帯はどのように獲得されてきたか- (小泉 政啓)

Comparative anatomy of the shoulder girdle from salamander to human (Koizumi, Masahiro)